

亀岡駅北側開発が起工

区画整理事業 式典で安全祈る

亀岡市のＪＲ亀岡駅北側の開発に向けた「亀岡市亀岡駅北土地区画整理事業」の起工式が15日、亀岡市追分町

の現地であった。地権者や行政関係者、追分町や余部町、保津

町などにまたがる17・2畝。地権者108人でつくる組合が、駅近隣に商業・文化ゾーンや公園ゾーンを設け、東部と西部の一角に住宅地の整備を計画している。事業期間は2020年3月末まで。

この日、桂川孝裕市長や地権者ら約30人が出席した。組合の関本孝一理事長(65)は「工事はこれからが本番。亀岡の玄関口にふさわしいにぎわいあるまちづくりを進めたい」とあいさつした。

桂川市長は「近隣の府の球技専用スタジアムと併せた駅北開発が、町の将来を大きく変えるきっかけとなる。市としてしっかり支援したい」と激励した。

(菅田恭彦)



工事が本格化する亀岡市亀岡駅北土地区画整理事業の対象エリア(亀岡市追分町)